

数字で振り返る岩見沢

私たちの日常生活は、気象など身近な自然現象のほか、通学や通勤時の交通、食料品などの買い物、ごみ処理、病院や学校、住まいの快適さなど、さまざまな社会現象と関わっています。こうしたさまざまな現象を正しく理解するため、岩見沢に関する統計数字を過去に遡って紹介していきます。

問合先 庶務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

第4回 変わる農業と稲作

今月の数字 約2万ヘクタール

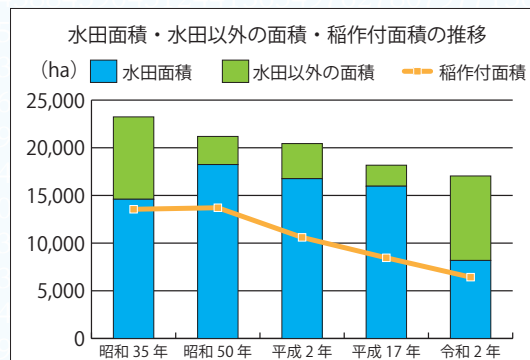
市の農業を代表する稲作は、寒冷地に適した品種改良、経営規模の拡大や機械化による効率化などが進められる一方で、昭和17年の食糧管理法により半世紀にわたり価格統制や貿易規制の対象として保護されてきました。

岩見沢、北村、栗沢を合わせたコメの収穫量は、昭和40年代前半、現在の約3倍に相当する年間9万トンを超えるまで増加。国全体としてもコメの自給が達成され、在庫米が増えたため、昭和45年から作り過ぎを抑えるため生産調整が行われました。昭和47年には、玉ねぎや小豆が作物市場の好景気に恵まれ、転作目標を大きく上回りました。昭和51年からは学校給食でも米飯が導入されましたが、それでもコメの消費量は伸び悩み、在庫が膨らみました。そこで、昭和53年からは良質米の生産とともに水田から畑作への計画的な転換が進められ、花卉や野菜などの栽培に取り組む農家が増えていきました。



小学生の稲刈り体験 (H5.10)

昭和40年代のピーク時には3地区合わせて約2万ヘクタールの水田が整い、昭和50年代にかけて圃場整備が進むと、畑作地とともに豊かな田園風景をつくり、子どもたちの学習などにも活用されてきました。



その後、平成5年の記録的な凶作を機に、国内での流通規制の撤廃と貿易の自由化が進むと、一層の消費拡大を目的に、平成22年にイメージキャラクター「いわみちゃん」が誕生しました。現在、少子高齢化や食の多様化などによりコメ離れが進み、水田面積は減少し、小麦や大豆のほか玉ねぎなどの野菜の収穫量がコメを上回る状況になっています。水田を中心に発展してきた地域の農業と農村の環境を守り、次世代に継承していくため、私たちができることを考えてみませんか。

人の動き (令和6年5月31日現在)

●住民基本台帳 人口 男 34,949 人(前月比 - 31)
女 39,875 人(前月比 - 58)
総数 74,824 人(前月比 - 89)
世帯数 40,651 世帯(前月比 + 4)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111 (代表) FAX 0126-23-9977

ホームページ

<https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課広報室

広報クイズ

プレゼント

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

問題

危険な暑さから避難できる場所として市が指定した「クーリングシェルター」は、暑さ指数□□以上が予測される場合に一般開放します。□に当てはまる数字をお答えください。

締め切り 7月22日(月) (必着)

応募方法

はがき(送付先左記)、市ホームページのフォーム、ファックス(0126-23-7731)、Eメール(pr@city.iwamizawa.lg.jp)で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報室へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。6月号の正解は警戒でした。

